

久保田町議

熱中症の心配や、汚い、臭い等によるいじめも事例としてあります。

国保が18歳以下の子どもに對しては保険証を出すようになつてはいるように、命に関する水を止めないようにできませんか。

町長

生活保護費の中には水道料が含まれている。水道料を納めてもらう事が原則である。

滞納が生じた場合は町の担当課と納付についての話し合いをして、納付計画が確認できれば

桜の名所にふさわしい

トイレに改修を

久保田町議

くじやく園には障害者用トイレと一般用トイレがあります。

障害者用トイレの一方はアコ―デオンカーテンで仕切られており、利用者のプライバシーは守られています。また、一方のトイレは30センチ程度の段差がある和式トイレでとても危険です。快適に利用できるように改修すべきです。

また、一般用のトイレは腐食しており、ドアノブは作動せず、一人で利用できるような状況で

水道を止めることはしていない。

久保田町議

就職する際、自動車の普通免許の取得は必至です。

高卒で就職する生活困窮世帯の子どもに對し、受講料を補助する考えはありませんか。

町長

生活困窮者からの相談を早期かつ包括的に受け付け、その抱えている課題を分析し、自立に向けて関係機関が連携による支援を行うこととされており、基本は現金給付ではなく自立に向けた人的支援の提供である。

現時点においては受講料を補助する考えはない。

久保田町議

子どもたちの将来が自治体の財源の豊かさで左右されるといふのはすごく悲しいことだと思います。

財源を何に使うかと言う事も自治体の責任だと思います。

また、現在、現金支給の生活保護費を早急に口座振り込みにする考えはありませんか。

町長

来年(2017年)4月1日から口座振り込みによる支給をする事になっている。

町独自の政策で

おたふくかぜの

予防接種を

久保田町議

おたふくかぜの予防接種について尋ねます。

子どもたちの将来に大きな影響を与える乳幼児期の貧困があります。

保育と貧困、社会と福祉になぎ希望をつむぐ編集者の一人で、長崎大学教育学部准教授の小西祐馬さんは、子どもたちの間に大きな格差、不平等が存在する状況が続いている。インフルエンザの予防接種を毎年しているのは高所得者で60.3%、低所得者層では48.5%、おたふくかぜの予防接種は同じく高所得者層で45.5%に對し、低所得者層では28.7%と云っています。

今、日本の乳幼児はこのような貧困、不平等の中にあります。子育ては家族の責任だけではありません。

おたふくかぜは未だに任意接種ではありますが重篤な髄膜炎や難聴など合併症の心配があります。接種料金も7,500円と高額です。

川棚町独自で補助する考えはありませんか。

町長

任意の予防接種は非接種者、および医師の責任と判断によって行われるものであり、行政が勧奨するものではないとされている。

今後も国の動向を見ながら、また、財政状況を財政的見地から助成のあり方についてもその方向性について研究していきたいと考えている。



久保田町議

国の政策を待つのではなく、本町でできませんか。

国に對しても、早く定期接種にするような呼びかけをする考えはありませんか。

町長

川棚町が助成すればもし健康被害が出た時に町に責任がある。よって、県下に先駆けて実施することは考えていない。国に對して呼び掛ける考えもない。



くじやく園の休憩所

はありません。桜の名所に恥ずかしくないトイレに改修する考えはありませんか。

町長

安全・安心なトイレに改修できないか、設置者の観光協会と協議していきたい。

一般用のトイレについては一部に腐食も見られ、特にドッグ